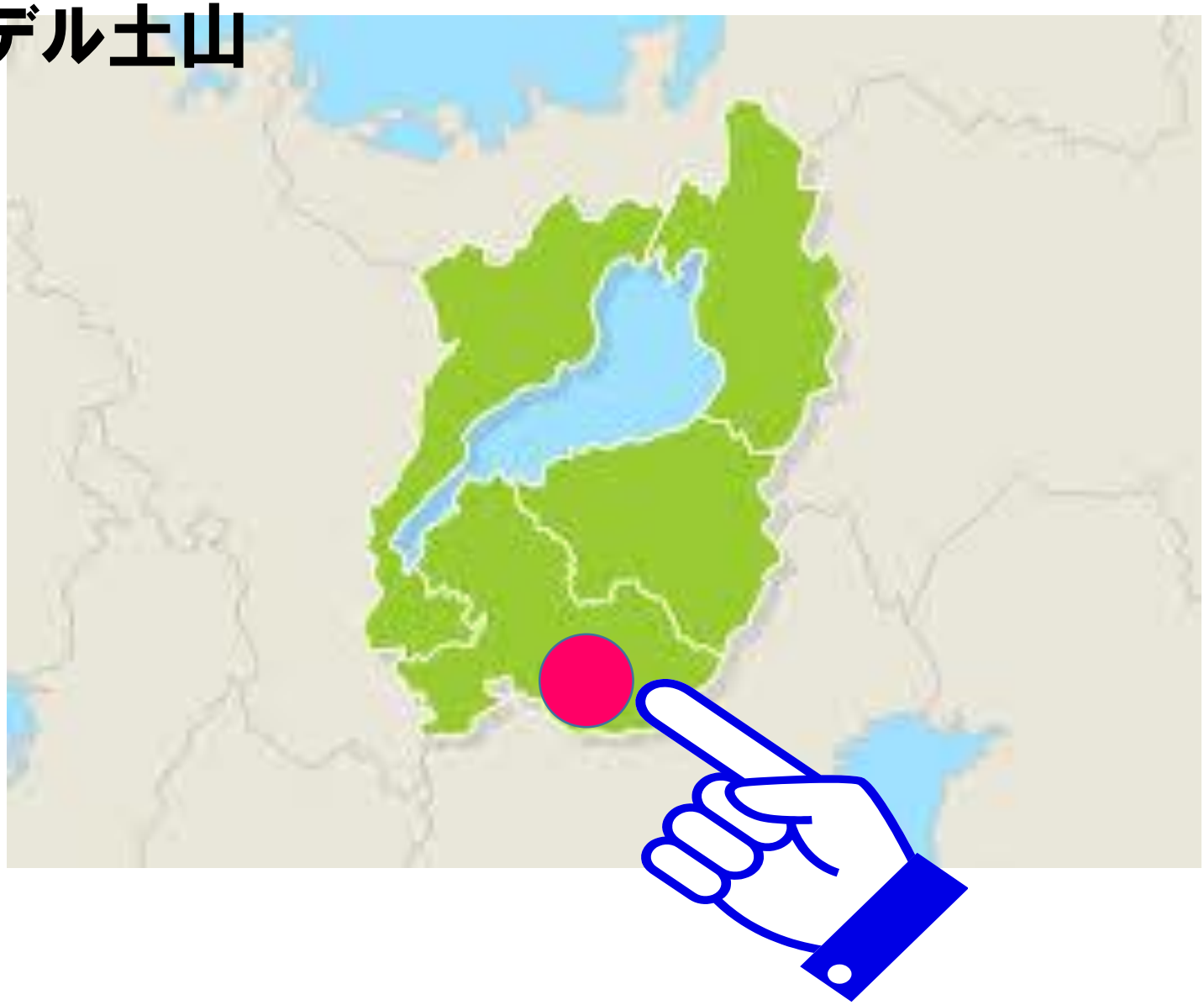
エーデル土山の

減災マニュアル＆
事業継続活動（ＢＣＰ）策定

社会福祉法人あいの土山福祉会　エーデル土山

宇田 和弘／Text by Kazuhiro Uda

社会福祉法人あいの土山福祉会
エーデル土山



①減災マニュアル

『減災』という考え方
具体的かつ実践可能
写真＆イラストを多用

台風／水害時の管内重点点検個所とポイント

①ユニット型機械室

降水量が増えると排水溝から水が入ってくることがある。排水ポンプが準備してあるが、冠水すると新館の空調、給湯が全て故障し、莫大な修理費用がかかるため、水害点検の最重要ポイント。

機械室を入ってすぐ左に入る

左奥に箱型の穴がある。

排水ポンプあり。黄色のセンサーが反

②事務所玄関及び事務所中庭

・事務所玄関の排水溝は、理事長室中庭と繋がっている。

・事務所玄関の排水溝は、行きどまっており、水が排水されないため、一定の水位を超えれば溢れて館内に入水してくる。その場合は、理事長室中庭も水があふれる。

・したがって、雨量が激しい時は、ポンプを写真の通り作動し、排水することが必要となる。

・ポンプの電源は、館内からとること。（窓を少し開けてコードを入れる）

③従来型ワーカー室中庭

・既存ワーカー室中庭には２つの排水ポンプが常設してあり、一定の水位になれば自然に作動することになっている。

・しかし、もしポンプが作動しないことがあれば排水量が非常に多く一気にワーカー室や、ＳＳユニットが冠水するため巡回点検を行うこと。

④ユニット型各共有スペース窓側

・新館各ユニット共に台風の際は、雨が入ってくる。写真のようにガムテープでの目張りを行う。

・排水溝のミザラは窓に立てかけておく。また排水口にゴミが溜まっている場合は除けること。

災害別対応

災害別レベル

- 災害ごとの規模による『レベル定義』を決めておく。
- レベルに応じた対応

③地震　an earthquake

東海地震をはじめ非常に大きな震災が滋賀県近郊で発生する可能性は高くいつ起きてもおかしくない状況である。また滋賀県においても震度５弱が今後３０年の間に起こる可能性は「１００％」であり十分警戒が必要である。

レベル	地震の内容	対応スタッフ	対応方法
レベル1	震度４～５弱	設備管理室・運転管理員・看護室 ケアワーカー ※いずれも当日出勤者	施設点検 利用者安否確認
レベル2	震度５強	設備管理室・運転管理員・看護室 ケアワーカー ※いずれも当日出勤者	施設点検 利用者安否確認
レベル3	震度６弱以上	管理職 出勤役職者 設備管理室	緊急災害対策本部設置 状況によりＢＣＰ発動
レベル4	震度７	緊急災害対策本部設置要綱による	緊急災害対策本部稼働 ＢＣＰ発動

地震の注意点

人員招集規定

1、災害時緊急出勤の基準

休日中の職員を対象としています。勤務中や出勤予定の者は以下の基準とは関係なしに出勤義務あり。

	管理職	役職者/看護師/相談員（非常勤含む）	一般職員（常勤に限る）
震度６以上（レベル③以上）	職場からの連絡がなくても緊急出勤する。	法人からの指示・連絡がなくても緊急出勤	法人からの指示・連絡がなくても緊急出勤
震度５強（レベル②）	職場からの連絡がなくても緊急出勤する。施設をチェックし必要時は職員に出勤指示発令	法人からの指示・連絡があれば緊急出勤	法人からの指示・連絡があれば緊急出勤
震度５弱以下（レベル①）	職場に連絡をとり必要と判断した場合のみ出勤する。	法人からの指示・連絡があれば緊急出勤	出勤の必要なし
対象外職員（一般職）看護師と相談員を除く	但し、**以下の状態にある一般職員**は対象外とします。（「家族」とは同居の親族とします。） ①職員自身若しくは家族が負傷している場合。 ②自宅建物が被災し危険な状態にある場合。 ③中学生以下の家族が自宅にいて、他に保護する家族がいない場合。 ④中学生以下の家族の所在が不明でかつ連絡が取れない場合。 ⑤職員自身が外出先で帰宅難民になり出勤が不可能な場合。 ※家族が負傷している場合や自宅被害が大きい時は、何よりそちらを優先して下さい。		

備蓄の充実・強化

サバイバルフーズ

・ＮＡＳＡ、米軍も使用。
・使用期限２５年
・様々な味あり。
・１００人×１Ｗの備蓄

備蓄の充実・強化

<u>排泄物固形剤</u>

・水が使用出来ない
時に便利。

備蓄の充実・強化

ウォーターゲート

・防水用品
・設置に時間がかからない

備蓄の充実・強化

水嚢

・土嚢よりも手軽
・少人数の時に重宝

地震予測

個人メルマガ

- 地震科学探査機構
- 測量工学による地震予測
- 週１回メール

JESEA 地震科学探査機構 JAPAN EARTHQUAKE SCIENCE EXPLORATION AGENCY

週刊MEGA地震予測

〇〇年〇月〇日発行

【目次】
1. 地震予測:週間異常変動図から
2. 地震予測:隆起沈降図から
3. 異常変動分布図
4. 地震情報一口メモ

【1. 地震予測:週間異常変動図から】

計測期間:〇月〇日～〇月〇日
下記の観測点で異常な変動が見られます。
但し、地震につながらない現象も含まれますが、何らかの地盤の変動と解釈してください。
※予測期間は、「要警戒」は1ヶ月程度、「要注意」1ヶ月～3か月程度、「要注視」は3か月～6か月程度

週間異常変動図 ※グラフは10日間の日々の変動です

②BCP（事業継続活動）

ＢＣＰ計画に含んだ内容

震度７を想定（夜間・日中）

①スタッフの被災状況確認書
②被害状況報告書
③財務上の手当（保険支払条件、確保資金）
④各種データのバックアップ体制
⑤復旧見込み時間
⑥目標復旧時間の設定
⑦被災直後～時間～日ごとの周辺環境の予測
　を立てて計画に反映させる。

経営資源	想定する被害	
	ライフラインの停止にならない	ライフラインの停止になる
要員	業務に携わる要員が不足してしまう 負傷、交通機関の麻痺等により、役員・従業員の20%が２日間出社できず、３日目におおむね全員が出社する。	業務に携わる要員が不足してしまう 負傷、交通機関の麻痺等により、役員・従業員の50%が７日間出社できず、８日目におおむね全員が出社する。
施設	施設が利用できない □	
設備	設備が利用できない 固定していない設備、什器、備品が転倒し、破損する。	
情報・システム	図面や取引データなどを喪失してしまう 固定していないデータサーバーが転倒し、破損する。	
資材・協力会社	新規の材料や商品、資材などが３日間調達できない。 資材の調達先や協力会社が近隣にある場合、被災し調達が困難になる。	新規の材料や商品、資材などが７日間調達できない。 資材の調達先や協力会社が近隣にある場合、被災し調達が困難になる。
電気・水道・電話		電気・水道・電話回線が利用できない 電気７日程度、水道７日程度、電話回線３日程度、利用できない。

ＢＣＰ－⑨　災害シュミレーション　（１）地震　夜間（

職員　夜勤４名　宿直１名

①被害想定（被災直後～）

	建物	器具・什器・設備	人的被害・負
①従来型 ②ＳＳ ③ユニット型 ④支援ハウス	・躯体の変形、施設の傾き ・建物倒壊 ・扉開かない ・スプリンクラー噴射 ・液状化現象 ・ユニット型の地下駐車場の水没	・PC、電話、棚、 ・ガラス飛散 ・書類散乱 ・マスターキーの紛失 ・エアコンの落下 ・水道管の破裂 ・ＰＨＳの不通 ・停電による視界不良	・天井落下による負傷者 ・ガラス飛散による負傷 ・火災による負傷者数

来るべき大災害対策に終わりなし
出来る限りの予算を投入し、自己
防衛を強化する！

et.

Edel Tutiyama.

Copyright ©Edel tutiyama All Rights Reserved.